

最終ゴールは、生徒の笑顔

天水中学校便り 4号

令和元年12月24日

校長 中村浩二

校長 中村浩二の 今年の漢字は「感」

①小天東小最後の運動会



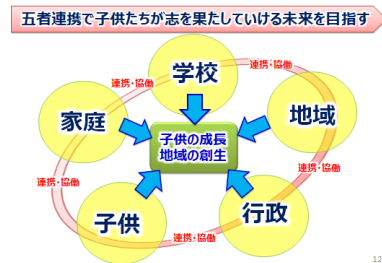
②天水夏祭り



③書道パフォーマンス



④五者連携シンポジウム (④図：シンポジウムのビジョン)



12

私が選んだ今年の漢字は、～「感」～。「感」には、「物事を見たり聞いたりして起こる心の動き。心が深く動く。」という意味があります。私の58年の人生の中で最も多く「感」を体験した年であったと思います。たくさんの「感」の中から、時系列に「私のベスト『感』」を4つだけ紹介します。(上の①～④参照)

◆①**5月26日(日)、小天東小学校最後の運動会**に本校の生徒会役員及び応援リーダーがエールを送りました。意気に感じる取り組みをやってくれました。地域の方々においては、とても感動され、万感の思いがこみ上げてきたそうです。今後、永遠に語り継がれることと思います。

◆②**8月3日(土)、天水夏祭り**に今年も参画しました。参加だけではなく、参画したところが意気に感じるところです。もちろん、祭りも盛り上がり、様々な世代の方々から感謝の言葉をいただきました。校長として、感無量です。昨年度の先輩たちの取り組みを引き継いだことで、天水夏祭りへの参画が、天水中の新たな伝統となりました。

◆③**10月20日(日)、文化祭の冒頭で、恒例の書道パフォーマンス**が披露されました。今年で5回を数え、企画や演出の質も高まり、感動だけではなく感激し、いつの間にか涙が出てきました。「これは天水中の伝統芸術では？」と体感した瞬間でした。

◆④**12月18日(水)、5者(生徒・保護者・地域・行政・学校)連携によるシンポジウム**を、本校の多目的ホールで開催しました。約60名の参加があり、上のビジョン(④図)のもと、「天水の未来」について、みんな(5者)で意見を交流することができました。新旧の生徒会役員からの提案や要望をはじめ、他の4者からの意見や提案もあり、有意義な意見交流ができました。対話を通して、お互いの距離感も縮まり、親近感や一体感を感じることができました。終了後の参加者の表情は、充実感や達成感に満ち溢れていました。それを見て、次のことを実感しました。「5者の連携・協働により、天水町は、子どもたちの夢や希望を実現できる未来をつくれます。」 以上で紹介を終わります。

～2020年もよろしくお願いします。～

